

オンライン研修「多様性が生きることばの教育」

研修 A 文化間移動する高校生の日本語指導 第 2 回研修会の報告

テーマ:キャリア開拓のための日本語指導

概要

研修実施日:2024年7月7日
参加者:125名
アンケート回収数:77件(61.6%)

研修資料について

教育・研修を目的とした場で参照資料としてのご提示に留めてください。部分的な切り取りや、加工はお控えください。また、本事業資料である旨を明示してご利用ください。

研修のねらいと目標※

※文部科学省「外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修モデルプログラム開発事業」の「豆の木モデル」(日本語教育学会 2019)に基づき設定

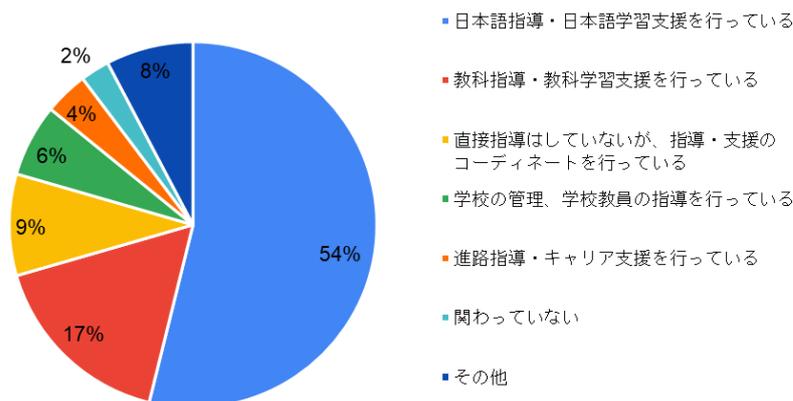
資質・能力	具体的目標
・育む力(日本語・教科の力の育成)	セ 学校内外の生活・学習に結び付けて、日本語や教科の指導・支援、内容(教科等)と日本語を統合した指導・支援をすることができる。
・つなぐ力(学校づくり)	テ 外国人児童生徒等教育を学校の教育課題に位置づけ、学校全体で取り組むよう働きかけることができる。

プログラム

- ①講義 1 キャリアを開拓する日本語指導
—職業的専門性に関連付けた日本語学習活動を例に—
小西円・齋藤ひろみ(東京学芸大学)
武内博子(明治大学)
- ②報告 「特別の教育課程」による日本語指導実施校の報告
佐藤 創(群馬県立太田フレックス高等学校)
- ③交流

アンケートより

<参加者の子どもの日本語教育への関わり>



運用力を高める学習デザイン案や介護についての授業案など具体的な例があり大変勉強になりました。皆さんのご質問やそれに対する回答からも、困り感、実態など、さまざまな学びがありました。

卒業後、進学する生徒にどんな力が必要か、それをどう日本語指導に落とし込むかがイメージができ、大変参考になりました。また高校の事例発表では、ゼロからの(またはマイナスからの)リアルな体制の作り方を伺うことができ、大変参考になりました。自分の現場で教科の取り出し授業の研究チームを立ち上げたいと思っているので、励みとなりました。

参加者の声

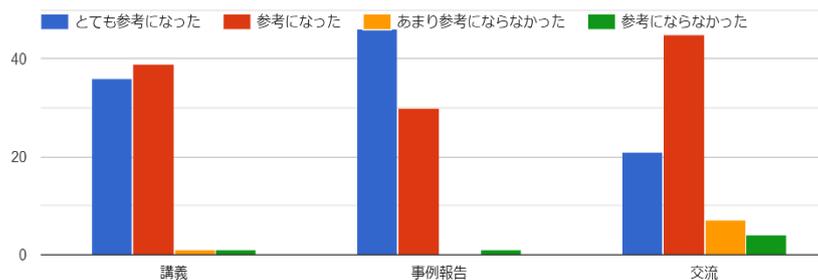


高校で、どのような力をつけていけばよいのか、具体的な取り組みなどが大変参考になりました。

また、どの先生でも担当できるようにとの工夫に、今後の日本語指導の教員間の、ヒントをいただきました。

全国に同じような状況の学校が多くあり、同じ立場で同じように奮闘されている先生方がいらっしゃることに励まされました。実践の中で得られた知見を共有いただけることはとてもありがたいと思いました。

<参考になったか(満足度)>



研修企画者より

講義1では職業的専門性を高めるための日本語の力を高めるというテーマで実施した。まず、ライフキャリアの視点から、高校生に対するキャリア教育の重要性を考えた。高校時代に育みたい職業的専門性の観点から見て、職業に対する知識を広げ、将来の職業選択に備えることが重要であることを確認した。そのような視点から、具体例として「調理師専門学校に進学する場合」と「介護士を目指す場合」の2つを取り上げた。前者においては、進学後に必要な専門性は進学後に学ぶものであることを確認し、高校時代には進学後の学びを支える力として「高校の学習活動に参加する日本語の力」を高めていく重要性を示した。後者では、職業に対する知識を広げる事例として介護士を取り上げ、介護士がどんな仕事であるのかを日本語の学びとともに理解していく過程を具体的に示した。報告では、「特別の教育課程」の実施校として、太田フレックス高校より、課程導入の前の日本語指導体制、導入後の指導体制について具体的な報告があった。「生涯学び続けることができる生徒育成」を教育目標とし、日本語の授業だけにとどまらずあらゆる機会を活用して日本語指導を進めていることが報告された。また、日本語を専門とする教員ではなくても継続できる日本語指導の実施、体制の構築についての報告に対しては、参加者からも「大変参考になった」との声が多く聞かれた。